

岡山短期大学

学校教育法施行規則第 172 条 2 に基づき、次に掲げる教育研究活動等の状況についての情報を公表します。

一 大学の教育研究上の目的に関すること (1 号関係)

幼児教育学科

本学は、教育基本法、学校教育法および短期大学設置基準により、高等学校基礎教育の上に一般の学術文化の研究を行なうとともに、専門教育に重きをおく短期大学教育を施し、よき社会人として時代の進運に応じ、Society 5.0 で実現する地域社会の指導者たるの人材を養成し、併せて幼稚園の教員および保育士たる資質を育成するをもって目的とする。

本学科の教育目標

幼児教育施設（幼稚園、保育所、幼保連携型認定こども園）の現場で、幼児教育（環境を通して行う教育）とは何かを考え、「資質・能力」「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を意識し、保育指針の「乳児・1 歳以上 3 歳未満児の保育」を理解し、乳児期の保育や子どもの育ちをとらえて、幼児期への学びの連続性を考えることができる保育者を養成する。

保育者養成の教育目標

- ① Society 5.0 時代の AI に代表される技術革新の進歩や IoT の広がり、世界のグローバル化や流動化など、日本社会や世界の状況の 20 年後の将来に対応できる力の基礎を育むことができる保育者を養成する。
- ② 幼児教育において育みたい「資質・能力」の三つの柱「知識及び技能の基礎」・「思考力、判断力、表現力等の基礎」・「学びに向かう力、人間性等」を育成することのできる保育者を養成する。
- ③ 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（10 の姿）「健康な心と体」「自立心」「協同性」「道徳性・規範意識の芽生え」「社会生活との関わり」「思考力の芽生え」「自然との関わり・生命尊重」「数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚」「言葉による伝え合い」「豊かな感性と表現」を育むことに向けて指導ができる保育者を養成する。
- ④ すべての子どもが安心して過ごせるよう、子どもの気持ちに寄り添い、子どもの生活状況や実態に合わせて気持ちが前向きになるよう満たすような働きかける養護と幼児教育を一体的に展開するために、保育の実際を評価し保育を改善し続けることができる保育者を養成する。

更に、卒業後の目標として、次の、公務員となる公務員養成コース、及び Society 5.0 時代の保育者となる Society 5.0 保育者養成コースを設ける。

※ Society 5.0 とは（内閣府 https://www8.cao.go.jp/cstp/society5_0/）

サイバー空間（仮想空間）とフィジカル空間（現実空間）を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する、人間中心の社会（Society）である。

狩猟社会（Society 1.0）、農耕社会（Society 2.0）、工業社会（Society 3.0）、情報社会（Society 4.0）に続く、新たな社会を指すもので、第 5 期科学技術基本計画（平成 28～令和

2 年度)において我が国が目指すべき未来社会の姿として初めて提唱された。

Society 5.0 で実現する社会は

IoT (Internet of Things) で全ての人とモノがつながり、様々な知識や情報が共有され、今までにない新たな価値を生み出すことで、これらの課題や困難を克服する。

また、人工知能 (AI) により、必要な情報が必要な時に提供されるようになり、ロボットや自動走行車などの技術で、少子高齢化、地方の過疎化、貧富の格差などの課題が克服される。

社会の変革 (イノベーション) を通じて、これまでの閉塞感を打破し、希望の持てる社会、世代を超えて互いに尊重し合あえる社会、一人一人が快適で活躍できる社会となる。

公務員養成コース

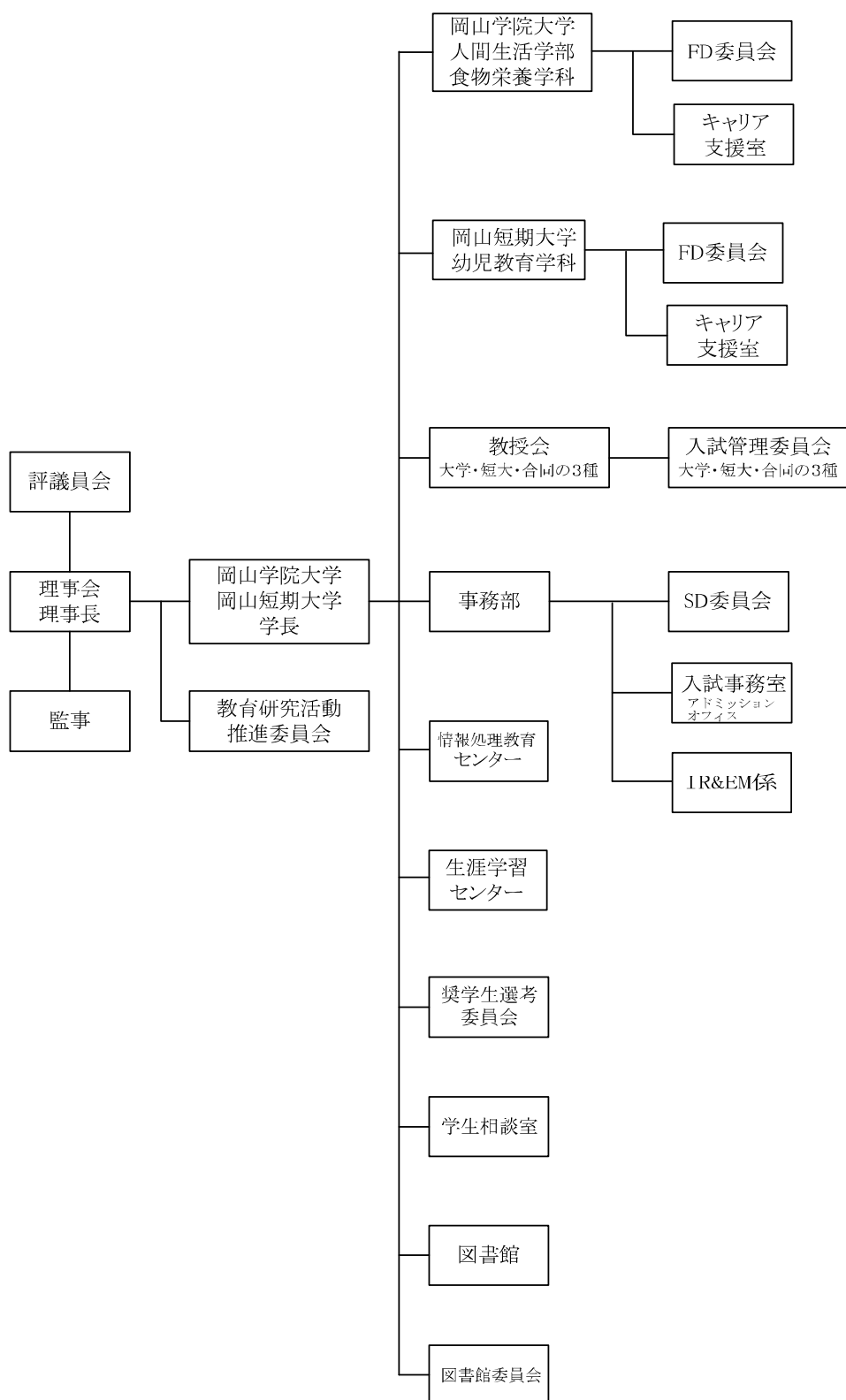
基礎教育科目の「公務員講座 (A)」「公務員講座 (B)」で公務員試験出題科目を集中的に学習すると共に、「卒業予備研究」「卒業研究 (A)」を通して集中的に公務員試験受験のための社会人基礎力を獲得し公務員試験に合格する。

Society 5.0 保育者養成コース

基礎教育科目の「ソサエティ 5.0 理解」「情報処理基礎」「情報処理演習」「ICT リテラシー (A)」及び「ICT リテラシー (B)」の学習を通して Society 5.0 時代の保育者に必要な ICT 技術を修得すると共に、「卒業予備研究」「卒業研究 (A)」「卒業研究 (B)」で「模擬保育室」の Society 5.0 化を研究し Society 5.0 時代の保育者になる。

二 教育研究上の基本組織に関すること (2号関係)

教育研究上の組織図



三 教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること (3号関係)

専任教員数(令和4年5月1日現在) (人)

学科	教授	准教授	講師	計
幼児教育学科	4	2	6	12

※准教授の人数は授業を担当しない教員1名を含む。

各教員が有する学位及び業績

教員名	原田博史	学位	工学修士	職名	学長 教授
-----	------	----	------	----	-------

担当科目	グローバル研修				
専門分野	土木構造物の構造解析、情報処理、米国アクレディテーションシステム				
最終学歴	昭和52年3月	法政大学大学院工学研究科建設工学専攻修士課程修了			
これまでの主な経歴	昭和52年4月 昭和59年4月 昭和59年4月 昭和60年8月 昭和61年4月 昭和61年4月 昭和62年4月 昭和63年4月 平成元年4月 平成2年4月 平成10年4月 平成14年4月 平成14年4月 令和2年4月	会社勤務(昭和59年3月迄) 学校法人原田学園主事就任(昭和61年3月末迄) 岡山女子短期大学講師(昭和63年3月迄) 大学設置審議会の教員組織審査(岡山女子短期大学 講師 コンピュータ概論、コンピュータ演習、コンピュータ演習Ⅱ、英文タイプⅡ(ワープロ)) 学校法人原田学園評議員、理事就任(現在に至る) 学校法人原田学園副理事長就任(平成14年4月1日迄) 学校法人原田学園法人本部長(平成2年3月31日迄) 岡山女子短期大学助教授(平成元年3月31日迄) 岡山女子短期大学(平成12年4月岡山短期大学に名称変更) 教授(現在に至る) 岡山女子短期大学副学長(平成10年3月31日迄) 岡山女子短期大学(平成12年4月岡山短期大学に名称変更) 学長(現在に至る) 岡山学院大学学長、人間生活学部学部長就任(現在に至る) 学校法人原田学園理事長就任(現在に至る) 岡山学院大学教授(現在に至る)			
これまでの主な業績	昭和59年4月 昭和59年12月 昭和61年4月 昭和63年9月 平成2年10月 平成6年1月 平成6年12月 平成8年3月 平成8年4月	岡山女子短期大学の全学科(家政学科・食物栄養学科・幼児教育学科)に情報処理教育を導入した。 岡山女子短期大学の英語科増設に伴ってカナダブリティッシュコロンビア州立マラスピナ・カレッジ(現バンクーバー・アイランド・ユニバーシティ)との姉妹校提携を掌った。 英語科学生の姉妹校での独自の英語研修を導入した。 会計及び教学関係の殆どの事務処理の機械化を導入した。 英語科を母体とする専攻科英語秘書専攻を平成元年4月に開設する為、カリキュラムの中に姉妹校との単位互換科目を取り入れ、学生の滞在施設となる本学所有のカナダ研修センター(敷地892.37㎡、延床面積182.98㎡)を姉妹校の所在するカナダBC州ナナイモ市に平成元年7月開設した際、購入から改修まで全て掌った。 教育の場において情報処理技術者の養成が急務となり、情報処理教育センターを新設した際、設計、設備を全て企画した。 岡山女子短期大学開学40周年史刊行した際、1年を掛けて全て編集し刊行した。 体育館を新設した際、設計、設備を全て企画した。 これまでの通年制の科目履修を改め、学習目標をたて易く、単位修得を弾力化するセメスター制を導入した。 全開講授業科目のシラバスの作成を指導し、学生に配付した。 全学をあげて大学改革を推進するため、本学独自の大学改革の標語「ニューカレッジ・フロンティアプラン(新・短期大学・最先端・構想)(NCFP)」を掲げ、教育内容・施設設備・学生生活等あらゆる面からの自己点検・評価を開始した。			

	平成 8 年 7 月 平成 9 年 4 月 平成 9 年 9 月 平成 9 年 10 月 平成 10 年 4 月 平成 11 年 1 月 平成 12 年 4 月 平成 12 年 5 月 平成 12 年 12 月 平成 13 年 4 月 平成 13 年 9 月 平成 14 年 1 月 平成 14 年 4 月	公式ホームページを開設した。 平成 9 年後期セメスター開講授業科目のうち専任教員担当授業科目全てに授業アンケートを実施した。 校舎内の図書館から図書館を新設した際、設計、設備を全て企画した。 スター型の学内 LAN（光ケーブルの基幹 1 Km 及び支線 6 Km）を学内全域の敷設を計画し、同時に学術情報センターから JPNIC に接続すると同時に、教員研究室には授業活用の授業計画による採択方式で端末を設置した。また、学生のホームルームの全て、図書館、情報処理教育センター及び就職求人コーナー等にも端末を設置し、インターネットの活用を促進した。 学内 LAN「OWCNET」構築により、情報処理教育科目に限らずネットワーク教育を様々な授業科目に取り入れることとした。 授業を受けやすい環境を整備する目的で、全教室・研究室に冷暖房を整備した。専任教員が担当する授業科目の全てに対して、履修学生による学生の授業評価を実施し、平成 12 年度より学内にホームページで公表した。 岡山女子短期大学の校名を「岡山短期大学」に変更し男女共学とした。 平成 11 年度自己点検・評価報告書に基づく第三者評価（高校教員による本学視察及び意見交換）を実施した。 教育水準の確保並びに教員の教育意識の向上を図るべく、FD（ファカルティディベロップメント）に学科毎に 1 年をかけて取り組み、その内容・成果を全学教育に反映させるため、全学科全専任教員参加の FD ワークショップを実施した。 平成 12 年度実施した自己点検・評価報告書に基づく第三者評価（プログラムレビュー）並びに教員による FD ワークショップの記録全てを平成 12 年度自己点検・評価報告書に掲載して公表し、さらに本学公式ホームページで平成 12 年度自己点検・評価報告書を学内外に公開した。 岡山短期大学に図画工作・器楽レッスン棟を新設した。 岡山学院大学の開学に伴い C 棟を全面改修により栄養学実験実習棟を新設した。 岡山学院大学人間生活学部食物栄養学科及び生活情報コミュニケーション学科を開学させた。
これまでの主な研究業績	（著書） 1. 短期大学における自己点検・評価の有り方に関する調査研究報告書（共著・日本私立短期大学協会短期大学運営問題委員会） 2. 米国 2 年制高等教育機関の認定過程等について（共著・日本私立短期大学協会） 3. 高等教育機関認定のハンドブックー米国北西地区大学認定協会ー（共著・日本私立短期大学協会） 4. 岡山女子短期大学開学 40 周年史（共著・編集・岡山女子短期大学） 5. 私立短期大学の管理運営と活性化（共著・日本私立短期大学協会） （学術論文） 1. 多経間ラーメンの位相差を考慮した振動解析（法政大学大学院工学研究科（修士論文）） 2. 女子短大におけるコンピュータ教育（岡山女子短期大学紀要第 9 号） 3. 短期大学における情報教育（短期大学教育・日本私立短期大学協会） 4. 短期大学教育の質保証と国際通用性（短期大学教育 73 号・日本私立短期大学協会） 5. 米国の 2 年制カレッジと日本の短期大学（短期大学教育 74 号・日本私立短期大学協会） 6. 短期大学基準協会の認証評価と教学マネジメント（短期大学教育 75 号・日本私立短期大学協会） （その他） 1. 岡山短期大学幼児教育学科 Society 5.0 保育者養成コース開設（共著・岡山学院大学・岡山短期大学紀要第 44 号）	
学会及び社会における活動等	土木学会会員（現在に至る） 高等教育質保証学会会員（現在に至る） 日本私立短期大学協会常任理事（現在に至る） 公益社団法人フードスペシャリスト協会理事（現在に至る） 一般財団法人大学・短期大学基準協会短期大学認証評価委員会委員長（現在に至る） 一般財団法人大学・短期大学基準協会副理事長（現在に至る） 一般財団法人大学・短期大学基準協会大学認証評価委員会委員長（現在に至る）	

教員名	尾崎 聡	学位	文学修士	職名	教授
-----	------	----	------	----	----

担当科目	ソサエティ 5.0 理解、倉敷学、キャリアガイダンス、公務員講座 (A)・(B)、幼児と人間関係、「幼児と人間関係」の指導法、児童文化、卒業予備研究、卒業研究 (A)・(B)	
専門分野	哲学	
最終学歴	昭和 61 年 3 月	岡山大学大学院文学研究科修士課程哲学専攻修了
これまでの主な経歴	昭和 62 年 11 月 平成元年 4 月 平成 8 年 4 月 平成 12 年 4 月 平成 13 年 4 月 平成 13 年 4 月 平成 14 年 4 月 平成 18 年 4 月 平成 19 年 4 月 平成 24 年 4 月 平成 29 年 4 月	岡山女子短期大学非常勤講師 (平成元年 3 月まで) 岡山女子短期大学講師 (平成 8 年 3 月まで) 岡山女子短期大学 (平成 12 年 4 月岡山短期大学に校名変更) 助教授 (平成 14 年 3 月まで) 島根県立大学非常勤講師 (民俗文化論 担当) (現在に至る) 川崎医療短期大学非常勤講師 (文化人類学 担当) (現在に至る) 倉敷芸術科学大学非常勤講師 (生活と文化 担当) (平成 16 年 3 月まで) 岡山学院大学人間生活学部生活情報コミュニケーション学科 (平成 16 年 4 月人間情報学科に名称変更) 助教授 (平成 18 年 3 月まで) 岡山学院大学人間生活学部人間情報学科教授 (平成 19 年 3 月まで) 岡山学院大学キャリア実践学部キャリア実践学科教授 (平成 24 年 3 月まで) 岡山短期大学幼児教育学科教授 (現在に至る) 岡山短期大学幼児教育学科 主任教授 (現在に至る)
これまでの主な研究業績	(著書) 1.『建部町史 民俗編』 2.『美作の護法祭』 3.『上齋原村史 民俗編』 4.『牛窓町史 民俗編』 5.『長船町史 民俗編』 6.『祭礼行事 第36巻 岡山県』 7.『倉敷市史 8 (自然・風土・民俗)』 8.『金光町史 民俗編』 9.『井原市史・民俗編』 10.『金光町史 本編』 11.『奥津町の民俗』 12.『井原市史第1巻通史編』 13.『岡山県の会陽の習俗』 14. 岡山県の歴史シリーズ 図説倉敷・総社の歴史 15. 年中行事大辞典 16.「Made in KOJIMA」第1章「児島の歴史」 (学術論文) 民俗学・人文科学方法論関係 1.ディルタイの精神科学における「意味(Sinn)」「意義(Bedeutung)」のカテゴリーの成立 2. ディルタイの精神科学方法論―「理解」概念の発展― 3. 人生設計の学の体系構築に向けて―報告その① ライフヒストリーについて― 4. ディルタイ解釈学の内的成立過程 5. 岡山城石垣の構築諸年代 6. 日本倫理における神と仏―神仏習合における日本の人間関係 ― 7. 写真で見る岡山の民俗「シシ垣と防塁」 (付) 高屋城付近の鳥瞰図 8. 戦乱の世をいかに戦ったか (付) 匠ヶ城縄張り図 9. 「岡山の中世石塔の特色と民俗学的諸問題」―小米石・豊島石の異形石塔、和泉砂岩の一石五輪、花崗岩の畿内式石塔をめぐって― 10. 「現代倫理の諸問題と倫理学講義 (古典倫理から現代倫理へ)」その①比較歴史民族学的視点から生命倫理を考察する 11. 「現代倫理の諸問題と倫理学講義 その②」映像人類学的考察の試み：ミッシェル・フーコー『狂気の歴史』『監獄の誕生』の世界をフランシス・コッポラ版『ドラキュラ』(原作 B・ストーカー)に見出す 12.「歴史的・民俗的景観図作成の試み」―中国山地最奥部の谷筋に見る中世的生活の痕跡 (苫田ダム水没地区調査から) ― (付) 苫田ダム水没地区歴史的・民俗的景観図 13. 古石塔の立つ光景 (古墓地、家系伝承、先祖顕彰) ～歴史的民俗的景観図作成の試み	

	その②～ 14. 「土居」考 ～歴史的・民俗的景観図作成の試み その③～ 15. 備中高松合戦前哨戦における秀吉の陣城「鍛冶屋山城」－伝承と軍記録と遺構－ 16. 「城山」について ～歴史的・民俗的景観図作成の試み その④～ 17. 城郭研究及び軍記研究から見た備中忍山城合戦と合戦場の諸城 －（附）忍山城に相対する陣城「信倉城」の縄張図下書き（光畑克己氏遺作） 18. 土居の景観（土居の伝承と地中から出現した土居）～歴史的・民俗的景観図作成の試み その⑤～ 岡山学院大学・岡山短期大学紀要 19. 井原市の中世山城 20. 尼子勢力掃討戦における毛利氏の城郭に関する一考察 ～備中高屋城（岡山県井原市） および高屋城合戦（永禄 12 年）を例に～ 21. 備中井原の土居について一言説と実在性－（～歴史的・民俗的景観図作成の試み その ⑥～） 22. 「歴史的・民俗的景観を記述することの人間存在論的意義について、苫田ダム水没地区を 事例に）～歴史的・民俗的景観図作成の試み その⑦～」 23. 地域アイデンティティ創出と伝説的世界の時空間 ～北条早雲の里の景観～ （歴史 的・民俗的景観図作成報告 その①） 24. 新『幼稚園教育要領』における領域「人間関係」その①～対象について（改訂の歴史か ら） 25. 新『幼稚園教育要領』における領域「人間関係」その②指導法について （遊びの場面 の言葉がけ等から）
学会及び社会 における活動 等	岡山大学哲学・倫理学会会員（現在に至る） 岡山民俗学会会員（現在に至る） 同学会理事（平成 16 年 4 月～現在に至る）、同学会誌 編集委員（平成 9 年 4 月～現在に至 る） 日本宗教民俗学会会員（現在に至る） 岡山大学日本思想史研究会会員（現在に至る） 日本幼少児健康教育学会会員（現在に至る） 倉敷市市民講座において講師として奉仕活動 岡山民俗学会理事（現在に至る） 倉敷市立天城幼稚園学校評議員（現在に至る） 倉敷市文化財保護審議会委員（現在に至る） 倉敷市文化財保護審議会会長（現在に至る）

教員名	浦上博文	学位	教育学修士	職名	教授
-----	------	----	-------	----	----

担当科目	キャリアガイダンス、保育者基礎演習、保育・教職実践演習（幼稚園）、幼児と言葉、「幼児と言葉」の指導法、卒業予備研究、卒業研究（A）（B）	
専門分野	国語	
最終学歴	昭和 58 年 3 月	岡山大学大学院教育学研究科修士課程（国語教育専攻）修了
これまでの主な経歴	昭和 52 年 4 月	岡山県倉敷市立工業高等学校常勤講師（国語科担当）（昭和 53 年 3 月まで）
	昭和 53 年 4 月	広島県私立福山暁の星女子中学・高等学校教諭（国語科担当）（昭和 56 年 3 月まで）
	昭和 56 年 4 月	広島県私立福山暁の星女子中学・高等学校非常勤講師（国語科担当）（昭和 57 年 3 月まで）
	昭和 57 年 4 月	広島県私立福山暁の星女子中学・高等学校教諭（国語科担当）（平成 16 年 3 月まで）
	平成 8 年 4 月	広島県私立福山暁の星女子中学・高等学校国語科主任（平成 16 年 3 月まで）
	平成 13 年 4 月	広島県私立福山暁の星女子中学・高等学校教務部副部長（平成 16 年 3 月まで）
	平成 16 年 4 月	岡山短期大学幼児教育学科専任助教授（平成 19 年 3 月まで）
	平成 16 年 4 月	岡山学院大学人間生活学部非常勤講師（現在に至る）
	平成 19 年 4 月	岡山短期大学幼児教育学科専任教授（令和 2 年 3 月まで）
平成 24 年 4 月	岡山短期大学幼児教育学科主任教授（平成 28 年 3 月まで）	
令和 2 年 4 月	岡山短期大学幼児教育学科特別専任教授（現在に至る）	
これまでの主な研究業績	（著書） 1. 教師のための表現分析の手引 2. 文章を作る過程の指導（学術論文） 1. 説明の文章を作る言語行為の指導に関する研究①高等学校 2 年生の場合 2. 説明の文章を作る言語行為の指導に関する研究②高等学校 2 年生の場合 3. 文章の作成過程を指導する教材 昭和 37 年版・47 年版・56 年版中学校教科書 教材の比較 4. 作文指導における教材の拡充 中学校 2 年生、意見文作成の場合に即して 5. 「文章の作成過程」と「言語表現の基礎」とを重視した指導第 2 学年の場合 6. 「持込み詞」による連文表現の基礎指導高等学校 2 年生の場合 7. 「説明、記録・報告の文章」の「文章構成の型」に関する調査 昭和 59 年版中学校教科書教材における 8. 「読書案内」作成の指導 9. 「評論・論説の文章」の「文章構成の型」に関する調査 昭和 59 年版中学校教科書教材における 10. 説明の文章を作成する指導 11. 文章構成の型を指導するための教材開発 12. 中学生の国語表現力に関する研究 文表現における問題点 13. 芥川龍之介「羅生門」の教材認識と基準授業案 14. 説明の文章を作る行為の指導 15. コンピュータを用いた読書指導 「読書案内」作成の実践 16. 考えるよう追い込む「発問」の条件 対立する発問によって思考力を育てる 17. 説明的な文章の教材認識 中学 2 年「文化というもの」（木村尚三郎）の場合 18. 中島敦「山月記」 「のだ」に着目して李徴の内面を読む 19. 漢字の習得力を鍛える 計画的・持続的・意欲的 20. 文章構成の「型」を重視した論説文作成の指導	

	四段型文章の場合 21. 梶井基次郎「檸檬」の教材認識 22. 連携によって情報を創り出す 23. 小学校作文教材の変遷 光村図書発行昭和 36 年版・55 年版国語教科書の場合 24. 初等・中等教育における作文教材の変遷 昭和 37 年版・47 年版・56 年版中学校国語教科書の場合 25. 初等・中等教育における作文教材の変遷 表現過程を指導する方法（昭和 30 年代～50 年代） 26. 保育者養成課程における国語表現指導 話し言葉（2 分間スピーチ）の場合 27. 保育者養成課程における国語表現指導 連絡帳の書き方を指導するための教材開発 28. 「保育所保育指針」及び「幼稚園教育要領」に関する漢字調査 保育者養成課程における漢字指導の改善を目指して 29. 短期大学生の誤字（平仮名）に関する調査 30. 小論文添削指導の事例 接続助詞「し」が出現した文の場合 31. 小論文添削指導の事例 接続助詞「たり」が出現した文の場合 32. 保育者養成における「言葉遊び」指導力の育成 33. 幼稚園教育要領における領域「言葉」の変遷—平成元年第 2 次改訂から 29 年第 5 次改訂まで—
学会及び社会 における活動 等	中国四国教育学会 表現学会 岡山国語談話会 岡山大学国語研究会

教員名	大賀恵子	学位	修士（教育学） 特別支援学校教諭二種免許状	職名	教授
-----	------	----	--------------------------	----	----

担当科目	教育心理学、特別支援の方法・保育と理解、発達心理学Ⅰ、幼児理解及び保育相談、子ども家庭支援論、子育て支援、保育・教職実践演習（幼稚園）、保育実習Ⅰ、保育実習指導Ⅰ・Ⅱ、卒業予備研究、卒業研究（A）・（B）	
専門分野	教育心理学（自律訓練法）、教育学、発達心理学	
最終学歴	平成 20 年 3 月 平成 24 年 3 月	岡山大学大学院教育学研究科学校教育臨床専攻修了 武庫川女子大学大学院臨床教育学研究科博士課程後期満期退学
これまでの主な経歴	昭和 61 年 5 月 昭和 61 年 8 月 昭和 62 年 10 月 昭和 63 年 4 月 平成 28 年 4 月 平成 31 年 4 月 令和 2 年 4 月	倉敷翠松高等学校常勤講師国語（～S61.7） 倉敷高等学校常勤講師国語（S62.8） 倉敷市立多津美中学校常勤講師 数学（～S63.3） 倉敷高等学校教諭 国語（数学）（～H28.3） 岡山短期大学講師（～H31.3） 岡山短期大学准教授 岡山短期大学教授
これまでの主な研究業績	（著書） 1. 「Kotsu2 くんのだイヤモンド」 2. 『現代保育論』現代保育内容研究シリーズ 1」 3. 『子ども家庭支援の心理学（保育士を育てる）』 4. 『子ども家庭支援論（保育士を育てる）』 5. 『子どもの理解と援助（保育士を育てる）』 6. 『インターネットではわからない子育ての正解（幼児編）』一藝社 共著（学術論文等） 1. 「自律訓練法の指導回数の違いが学級集団に及ぼす影響」 2. 「自律訓練法の指導回数の違いが学級集団に及ぼす影響」 3. 「高等学校における攻撃性に及ぼす自律訓練法の効果と実践の必要性」 4. 乳幼児の遊びに対する援助が保育者の資質に及ぼす影響―「こどもといっしょに運動会」を通して 5. 保育者をめざす学生の対人援助スキル向上に関する一考察―「相談援助」の授業から 6. 発達段階に応じた教育プログラムの開発と効果に及ぼす影響―教育心理学の領域から― 7. 発達障害における早期発見と保育者の支援に関する一考察―事例と課題― 8. 「触覚が乳幼児の発達段階に及ぼす影響―心地よさの観点による検証―」 9. コロナ禍における保育所校内実習の実践報告	
学会及び社会における活動等	日本自律訓練学会 日本自律訓練学会 第 14 回池見研究奨励賞 表彰式平成 27 年 10 月 11 日 （論文名「高等学校における攻撃性に及ぼす自律訓練法の効果と実践の必要性」） 日本教育心理学会 日本ロールレタリング学会 日本教育カウンセリング学会 日本交流分析学会 日本ストレス学会 日本ストレスマネジメント学会 日本臨床動作学会 日本発達心理学会 日本保育学会 日本子ども学会	

教員名	関野智子	学位	修士（教育学）	職名	教授
-----	------	----	---------	----	----

担当科目	幼児と表現Ⅱ、「幼児と表現Ⅱ」の指導法、幼児と図画工作、卒業予備研究、卒業研究(A)(B)		
専門分野	美術教育		
最終学歴	平成8年3月	岡山大学大学院教育学研究科美術教育専攻修了	
これまでの主な経歴	平成8年4月	倉敷市立短期大学服飾美術学科非常勤実習助手(～平成9年3月)	
	平成9年4月	笠岡市立新吉中学校常勤講師(～平成10年3月)	
	平成10年4月	倉敷市立西中学校教諭(～平成13年3月)	
	平成13年4月	金光学園中学校・高等学校非常勤講師(～平成20年3月)	
	平成13年9月	山陽新聞カルチャープラザ天満屋教室土曜絵画教室講師(～平成20年12月)	
	平成16年4月	倉敷市立短期大学服飾美術学科非常勤講師(～平成17年3月)	
	平成17年4月	岡山大学教育学部附属中学校非常勤講師(～平成18年3月)	
	平成20年4月	川崎医科大学附属高等学校非常勤講師(～平成21年3月)	
	平成20年9月	岡山短期大学幼児教育学科非常勤講師(～平成22年3月)	
	平成22年7月	関野美術教室講師(～平成26年3月)	
	平成23年1月	山陽新聞カルチャープラザ西大寺教室講師	
	平成24年4月	勝央美術文学館「ちるどれんずあーとぷろぐらむ」講師	
	平成25年7月	竜王保育園絵画講師	
	平成26年4月	岡山県立総社南高等学校非常勤講師(エキスパート)	
	平成28年4月	岡山県立高梁城南高等学校デザイン科非常勤講師	
	平成29年4月	岡山短期大学幼児教育学科特別専任講師	
	令和2年4月	岡山短期大学特別専任准教授(令和4年3月まで)	
	令和4年4月	岡山短期大学特別専任教授(現在に至る)	
	これまでの主な研究業績	学術論文 1. 文化的環境としての学校(修士論文) 2. 学びの連続性に着目した保育園での造形活動について―「ひと」に着目をした実践を通して― 3. 地域と共に育てるワークショップ―寒河コミュニティ協議会とのとりくみ― 1980年代における学校施設の文化的環境づくりについて―1%システムの行方― 作品発表 ①二人a ②列車待ち ③夜が来る ④桜の丘でⅡ ⑤YAKU ⑥次へ ⑦言葉を探して ⑧満ちる朝 ⑨朝に夕に―大地 ⑩零に立つ ⑪空を読む ⑫花絨毯の午後 ⑬新風 ⑭夏の室内 ⑮潮風に ⑯遠くに波音 ⑰森の子・春 ⑱暮れゆく (教育実践記録等) 1. 学びの連続性に着目した保育園での造形活動について―「ひと」に着目をした実践を通して― 2. 地域と共に育てるワークショップ―寒河コミュニティ協議会とのとりくみ― 3. 学びの連続性に着目した保育園での造形活動について―「ひと」に着目をした実践を通して―	

	4. 地域と共に育てるワークショップー寒河コミュニティー協議会とのとりくみー 5. 学びの連続性に着目した保育園での造形活動についてー「ひと」に着目をした実践を通してー 6. 地域と共に育てるワークショップー寒河コミュニティー協議会とのとりくみー 7. 自己肯定感を育む演習授業を目指して 8. 招き猫美術館との連携授業について 9. 未就学児を対象とした新聞紙スティックによる立体づくり
学会及び社会における活動等	岡山県美術家協会 岡山県美術家協会設立から 10 年間 事務局・理事として協会の組織づくり、会報作成、教育普及活動の企画・立案、HP づくりに携わる。 AMOKA プロジェクト 西栗倉村にある「天岡(あもか)公園」をものづくりや美術の楽しさを発信する基地として再生するプロジェクトに事務局として携わる。 ちるどれんずあーとぷろじえくと 勝央美術文学館での 4 歳児～小学校 2 年生までを対象としたワークショップの講師をつとめる。 天狗山登山・竹炭作り体験会 寒河コミュニティ推進協議会主催で年に 1 度開催される、地域の材(牡蠣殻・竹炭)を用いた工作ワークショップで講師をつとめる。 新見美術館親子ワークショップ「絵の中に入ってみよう」「おもいでを描こう」 「新見市制施行 10 周年・美術館開館 25 周年テレビせとうち開局 30 周年北海道立近代美術館・札幌芸術の森美術館コレクションによるエコール・ド・パリ～パリに咲いた異邦人の夢～」付帯事業としての子ども対象のワークショップで講師をつとめる。 アムス岡山店一日教室講師 アムス岡山店での一日教室の講師を年に 1 回つとめる。 総社芸術祭 2019 参加企画美術展 2019 年の芸術祭参加に向けて、美術展の企画に携わっている。

教員名	原田 俊孝	学位	修士（経営学）	職名	准教授
-----	-------	----	---------	----	-----

担当科目	ICT リテラシーⅠ・Ⅱ、教育の方法及び技術	
専門分野	経営学、情報処理、キャリアデザイン	
最終学歴	平成 23 年 3 月	大東文化大学大学院経営学研究科経営学専攻（博士前期課程）
これまでの主な経歴	平成 23 年 4 月 平成 25 年 3 月 平成 25 年 4 月 平成 30 年 4 月 令和 2 年 4 月 令和 3 年 4 月 令和 4 年 4 月 令和 4 年 4 月	岡山短期大学幼児教育学科 助教 学校法人原田学園評議員（現在に至る） 岡山学院大学・岡山短期大学 学園主事・総務課長（現在に至る） 岡山短期大学幼児教育学科 講師（令和 4 年 3 月まで） 岡山学院大学・岡山短期大学 事務部長（現在に至る） 岡山学院大学人間生活学部食物栄養学科 講師（令和 4 年 3 月まで） 岡山学院大学・岡山短期大学 准教授・副学長（現在に至る） 学校法人原田学園理事・副理事長（現在に至る）
これまでの主な研究業績	（学術論文等） 1. 短期大学のキャリアガイダンスにおけるシステム認識プロセスの適用の一考察 2. 学校教育における情報機器の活用と課題 3. 岡山短期大学幼児教育学科 Society 5.0 保育者養成コース開設（共著・岡山学院大学・岡山短期大学紀要第 44 号） 4. Society 5.0 への取り組み（1）—岡山短期大学幼児教育学科での実践—（共著・岡山学院大学・岡山短期大学紀要第 44 号） 5. Society 5.0 への取り組み（2）—岡山短期大学幼児教育学科での実践—（共著・岡山学院大学・岡山短期大学紀要第 44 号）	
学会及び社会における活動等	日本キャリアデザイン学会	

教員名	山口雪子	学位	博士（農学）	職名	准教授
担当科目	なし				
専門分野	農学				
最終学歴	平成 11 年 3 月	岡山大学大学院自然科学研究科生物資源科学専攻博士課程修了			
これまでの主な経歴	平成 2 年 4 月 平成 2 年 6 月 平成 5 年 2 月 平成 11 年 9 月 平成 12 年 4 月 平成 19 年 4 月	株式会社カイノス入社 株式会社カイノス伊東研究所配属 株式会社カイノス退社 岡山女子短期大学幼児教育学科に専任講師として就職 岡山短期大学に校名変更 准教授に職位変更（現在に至る）			
これまでの主な研究業績	(著書) 1. 子どもと環境 (学術論文) 1. 土壌生成における植生の影響について一伊豆大島火山性土壌の腐植生成を中心として (修士論文) 2. Aluminum tolerance acquired during phosphate starvation in cultured tobacco cells. 3. Protective effect of glutathione on the cytotoxicity caused by a combination of aluminum and iron in suspension-cultured tobacco cells. 4. Cell death process initiated by a combination of aluminum and iron in suspension-cultured tobacco cells: apoptosis-like cell death mediated by calcium and proteinase. 5. タバコ培養細胞におけるアルミニウム障害ならびに防御機構に関する研究（博士論文） 6. 「小学校生活科・保育活動に役立つバリアフリー自然体験型環境教育教材の開発」(平成 29～令和元年度 科研費 基金 基盤研究 (C) 17K04964) 成果報告書 (その他) 1. 学科全体で取り組む学外実習事前指導ー1 年次における保育者への自己課題と学びの明確化ー 2. 保育者養成課程における体験学習的環境教育の試み 3. スクールインタープリターによる校庭での自然体験型環境教育活動(1) ー環境目標・理念に基づく新たな指導者養成の開発と実践ー 4. スクールインタープリターによる校庭での自然体験型環境教育活動(2) ー小学校ゲストティーチャーが及ぼす教育的効果に関する研究ー 5. 体験型学習における人的環境についての研究 6. 環境教育におけるユニバーサルデザインについての研究 7. 環境教育におけるユニバーサルデザインについての研究 (2) 8. 環境教育におけるユニバーサルデザインについての研究 (3) 9. 環境教育におけるユニバーサルデザインについての研究 (4) 10. 自然体験型教育のためのバリアフリー教材に関する研究 11. 環境教育におけるバリアフリー教材の開発(2) ー動物を題材とする教材の可能性ー 12. 環境教育におけるユニバーサルデザインについての研究 (5) 13. 幼少期の経験が野生動物の好悪に及ぼす影響 14. 動物を題材にしたバリアフリー教材の研究 15. 環境教育におけるバリアフリー教材の開発(3)ー動物を題材とする教材の必要性についてー 16. 動物を題材にしたバリアフリー環境教育教材の開発 17. インクルーシブな自然体験・環境学習のための バリアフリー教材研究 18. 幼少期の経験と野生動物印象との関連について ー視覚障害者アンケート調査による考察ー				
学会及び社会における活動等	日本土壌肥料学会、日本植物生理学会、日本分子生物学会、 日本環境教育学会、こども環境学会、日本野外教育学会、 日本 ESD 学会、環境情報科学センター				

教員名	都田修兵	学位	修士（教育学）	職名	講師
-----	------	----	---------	----	----

担当科目	グローバル研修、キャリアガイダンス、公務員講座（A）・（B）、保育者論・教師論、教育原理、教育制度論、事前・事後指導、幼稚園教育実習、保育・教職実践演習（幼稚園）、保育原理Ⅰ・Ⅱ、教育課程論及び教育方法・技術論、卒業予備研究、卒業研究（A）・（B）	
専門分野	教育学	
最終学歴	平成 27 年 3 月 平成 29 年 3 月	岡山大学大学院教育学研究科学校教育学専攻（修士課程）修了 広島大学大学院教育学研究科後期博士課程教育人間科学専攻中途退学
これまでの主な経歴	平成 27 年 5 月 平成 27 年 9 月 平成 28 年 4 月 平成 28 年 10 月 平成 29 年 4 月 平成 30 年 4 月	国立大学法人広島大学非常勤職員 広島大学大学院教育学研究科ティーチング・アシスタント（TA）（平成 28 年 2 月まで） 広島県立三次看護専門学校非常勤講師（「論理的思考」を担当）（平成 28 年 3 月まで） 国立大学法人広島大学非常勤職員 広島大学大学院教育学研究科オリファイド・ティーチング・アシスタント（QTA）（平成 29 年 2 月まで） 広島県立三次看護専門学校非常勤講師（「教育学」を担当）（平成 29 年 1 月まで） 岡山短期大学幼児教育学科助教 岡山短期大学幼児教育学科講師（現在に至る）
これまでの主な研究業績	（学術論文等） 1. A Study of Acceptance of Emerson's Thought in Japan: Focusing on Tokoku Kitamura's Emerson 2. R. W. エマソンの神秘主義思想とその教育的意義 3. エマソンの超越主義的教育思想における神秘主義の意味 4. エマソンの超越主義的教育思想のもつ宗教的特質 5. R. W. エマソンの初期教育思想に関する研究―牧師の二重性と教育的空間の二重性に着目して― 6. 大学教員の授業観に関する研究―教職科目の授業分析とインタビュー分析を通じて― 7. 道徳授業の難点を大学における授業でどのように考えるか 8. 新幼稚園教育要領における「道徳性・規範意識」に関する考察（著作） 1. 生き方を耕す小学校の道徳授業 2. 「先生の先生になる」ための教育プログラムの現状と課題 3. 宗教と道徳の関係について説明しなさい（共著） 4. 道徳科における「道徳的諸価値」について説明しなさい（共著） 5. 「特別の教科 道徳」における「内容項目（A）」について説明しなさい（共著）（教育実践記録等） 1. 「教職」の社会的意義と「自己信頼」による「教育的相互尊重」 2. 教員の職務内容と「チーム学校」の関係に関する研究 3. 教育方法及び技術の歴史的展開と教育方法としてのアクティブラーニング 4. 年齢別保育指導案の作成と評価―「地藏鬼」を事例として― 5. 保育指導案の書き方と保育現場における評価 6. 日本における教育改革と教育制度としての幼児期の教育 7. 学校における道徳教育の教育内容・教育方法再考（共著） 8. 学校と地域、教育行政の協働による学校安全の構築に関する研究 9. 「特別活動」と「総合的学習の時間」の目標と内容の関係 10. 自然を意識した道徳授業の理論的基盤に関する研究序説―エマソンの超越主義思想と自然観を手がかりとして― 11. 道徳授業におけるマンガ教材のための基礎的研究 12. 幼児教育における保育内容「環境」の重要性（共著） 13. 保育内容「環境」の指導案作成と1つの実践報告（共著） 14. Society 5.0 への取り組み（1）―岡山短期大学幼児教育学科での実践―（共著） 15. Society 5.0 への取り組み（2）―岡山短期大学幼児教育学科での実践―（共著）	
学会及び社会における活動等	教育哲学会、教育思想史学会、日本道徳教育学会、日本道徳教育方法学会、日本デューイ学会、日本ペスタロッシャー・フレーベル学会、イギリス理想主義学会、中国四国教育学会、くらしき幼児教育ネットワーク	

教員名	吉田 升	学位	博士（健康科学）	職名	講師
-----	------	----	----------	----	----

担当科目	体育実技、体育理論、保育実習指導Ⅰ、保育実習Ⅱ、保育実習指導Ⅱ、幼児と健康、 「幼児と健康」の指導法、幼児と表現Ⅰ、「幼児と表現Ⅰ」の指導法、幼児と体育（Ａ）・（Ｂ） 卒業予備研究、卒業研究（Ａ）・（Ｂ）	
専門分野	運動生理学、環境生理学、健康科学	
最終学歴	令和元年 9 月	川崎医療福祉大学大学院医療技術学研究科健康科学専攻（博士（健康科学））
これまでの主な経歴	令和元年 9 月	川崎医療福祉大学非常勤講師（健康体育実技（スポーツ系）、体育指導法C、健康体育基礎演習）
	令和元年 9 月	吉備国際大学非常勤講師（生涯スポーツ実習看護・作業、生涯スポーツ実習スポ社B）
	令和 2 年 4 月	岡山短期大学幼児教育学科助教
	令和 3 年 4 月	岡山短期大学幼児教育学科講師
これまでの主な研究業績	（学術論文等） - Effect of the Rotational Speed of a Long Jump Rope in a Person Turning the Rope on Heart Rate and Oxygen Uptake - 水泳中の息継ぎの指導法に向けての基礎的研究（１）—呼吸経路の変更に要する時間について— - グレープフルーツ果汁含有ミネラルウォーター摂取が低山登山中の水分摂取行動および尿中成分に及ぼす影響 - 身体表現に対する保育学生の意識調査—保育内容「表現（身体）」の受講前調査— - ウェアラブル呼吸ガス分析装置を用いた酸素摂取量の妥当性（査読付き） - 自閉症児者のエンパワメント向上のための水中運動教室の取り組み（査読付き） （教育実践記録等） - 幼稚園教育要領の領域「健康」における変遷 - 幼稚園教育要領の領域「健康」における指導案の提案 - 幼稚園教育要領の領域「表現」における変遷 - 幼稚園教育要領の領域「表現」における指導案の提案	
学会及び社会における活動等	日本体力医学会、日本運動生理学会、日本登山医学会、日本幼児体育学会、 日本宇宙航空環境医学会、日本体育学会	

教員名	秋山智代	学位	準学士	職名	講師
担当科目	幼児と環境、「幼児と環境」の指導法、保育・教職実践演習（幼稚園）、教育課程論及び教育方法・技術論				
専門分野	幼児と環境				
最終学歴	昭和 52 年 3 月 平成 3 年 3 月	岡山女子短期大学（平成 12 年 4 月岡山短期大学に名称変更）幼児教育学科卒業 武蔵野美術短期大学卒業			
これまでの 主な経歴	昭和 52 年 4 月 平成 8 年 4 月 平成 14 年 4 月 平成 27 年 5 月 令和 3 年 9 月	同心幼稚園 幼稚園教諭 主任（昭和 63 年 3 月まで） 幼児美術教室主宰（平成 10 年 3 月まで） 同心幼稚園 幼稚園教諭（平成 27 年 3 月まで） 第二まこと幼稚園 幼稚園教諭（令和 3 年 3 月まで） 岡山短期大学幼児教育学科特別専任講師（現在に至る）			
これまでの 主な研究業績	（教育実践記録等） 1. 「生活科」、「総合的な学習」学習指導方法 2. 「生活科」「総合的な学習」指導教員				
学会及び社会における活動等	なし				

教員名	山上幸子	学位	準学士	職名	講師
-----	------	----	-----	----	----

担当科目	乳児保育Ⅰ、乳児保育Ⅱ、保育実習指導Ⅰ、保育実習指導Ⅱ、保育・教職実践演習(幼稚園)	
専門分野	保育所経営管理	
最終学歴	昭和52年3月	岡山女子短期大学（平成12年4月岡山短期大学に名称変更）幼児教育学科卒業
これまでの主な経歴	昭和52年4月 昭和60年4月 平成6年4月 平成12年4月 平成17年4月 平成18年4月 平成19年4月 平成20年4月 平成22年4月 平成24年4月 平成28年4月 平成29年4月 令和4年4月	倉敷市王子保育園 保育士（昭和60年3月まで） 倉敷市和井田保育園 保育士（平成6年3月まで） 倉敷市柳田保育園 保育士（平成12年3月まで） 倉敷市上の町保育園 保育士（平成17年3月まで） 倉敷市和井田保育園 保育士（平成18年3月まで） 倉敷市田の口保育園 代表保育士（平成19年3月まで） 倉敷市琴浦西保育園 代表保育士（平成20年3月まで） 倉敷市庄保育園 主任（平成22年3月まで） 倉敷市第五福田保育園 園長（平成24年3月まで） 倉敷市柳田保育園 園長（平成28年3月まで） 倉敷市第一福田保育園 園長（平成29年3月まで） 倉敷市茶屋町保育園 園長（現在に至る） 岡山短期大学幼児教育学科特別専任講師（現在に至る）
これまでの主な研究業績	実務家教員	
学会及び社会における活動等	なし	

教員名	清友久美子	学位	学士称号 司書	職名	講師
-----	-------	----	------------	----	----

担当科目	図書館概論、図書館制度・経営論、図書館情報技術論、図書館サービス概論、情報サービス論、情報サービス演習、図書館情報資源概論、情報資源組織論、情報資源組織演習、図書館サービス特論、図書・図書館史	
専門分野	図書館学	
最終学歴	昭和 57 年 3 月	明治大学文学部卒業
これまでの主な経歴	昭和 62 年 4 月 平成 8 年 4 月 平成 16 年 4 月 平成 29 年 4 月 令和 2 年 4 月 令和 3 年 4 月	岡山県総合文化センター 岡山県立大学附属図書館 岡山県立図書館 同 総括参事 真庭市任期付職員真庭市立図書館 岡山短期大学特別専任講師（現在に至る）
これまでの主な研究業績	（その他） 1. 著書『玄々斎随筆一墨匠・松井元泰の遺書』（吉備人出版 2018）の編集に携わる。	
学会及び社会における活動等	岡山大学図書館ボランティア	

教員名	河原真理	学位	音楽学士	職名	講師
担当科目	幼児と音楽（A）, 幼児と音楽（B）, 幼児と音楽（C）, 幼児と音楽（D）				
専門分野	音楽				
最終学歴	昭和 58 年 3 月	武蔵野音楽大学器楽科 ピアノ専攻 卒業			
これまでの主な経歴	昭和 58 年 4 月	岡山女子短期大学（平成 12 年 4 月岡山短期大学に名称変更）幼児教育学科非常勤講師音楽Ⅰ担当（昭和 62 年 3 月まで）			
	平成元年 6 月	岡山女子短期大学幼児教育学科非常勤講師音楽Ⅰ担当（令和 4 年 3 月まで）			
	令和 4 年 4 月	岡山短期大学幼児教育学科特別専任講師（現在に至る）			
これまでの主な研究業績	（その他）				
	1. 岡山県新人演奏会 2. 岡山女子短期大学教員演奏会 3. 岡山女子短期大学教員演奏会 4. 岡山女子短期大学教員演奏会 5. 開学 40 周年記念演奏会 6. 岡山女子短期大学教員演奏会 7. 岡山女子短期大学教員演奏会 8. 岡山女子短期大学教員演奏会 9. 武蔵野音楽大学アンサンブル演奏会 10. 岡山女子短期大学教員演奏会 11. 岡山女子短期大学教員演奏会 12. 岡山女子短期大学教員演奏会				
学会及び社会における活動等	なし				

四 入学者に関する受入方針及び入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること（4号関係）

（入学者に関する受入方針、入学者数、入学定員・収容定員、在学者数、在籍者数、卒業生数、進学者数、就職者数）

幼児教育学科

入学者受け入れの方針

本学に入学する人物には、次のような資質・能力を求める。

- 自分のなりたい保育者像が明確である。
- 子どもが好きで、心身ともに健康で、何事にも積極的である。
- 幼稚園教諭免許と保育士資格の両方を取得し、卒業後保育者として働く意志が強い。
- Society 5.0 時代に必要なスキルの修得意識が強い。
- 本学での学習に必要な一定水準の学力を身に付けている。
- 体育や図画工作、音楽が好きで、特にピアノについては、基礎技能を身に付けようと努力できる。

（令和4年5月1日現在）

入学者数	入学定員・収容定員	在学者数	在籍者数	卒業生数	就職者数	進学者数
48 人	100 人・200 人	95 人	96 人	41 人	37 人	1 人

五 授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること（5号関係）

（シラバスや年間の授業の計画の概要）

幼児教育学科

教育課程編成・実施の方針

卒業要件として学生が修得すべき単位数について、学生が1学期に履修科目として登録することができる単位数の上限を30単位とするため、基礎教育科目及び専門教育科目と合わせた単位の上限を30単位とし、可能な限り25単位に近づけるように科目を開講する。

専門教育科目の編成と実施

幼稚園教諭二種免許状取得に必要な科目と、保育士資格取得に必要なカリキュラムを編成する。

授業の実施は、専門的学習成果のみではなく汎用的学習成果をも獲得できるように実施する。

基礎教育科目の編成と実施

免許法施行規則の第66条の6に定める科目と共に、卒業後、公務員となる公務員養成コース及びSociety 5.0時代の保育者となるSociety 5.0保育者養成コースに必要な授業科目を編成する。

意欲ある学生に対して図書館司書を取得できる科目を編成し、実施する。

シラバス

シラバスは次の作成規則により本学公式ウェブサイトで公開している。

シラバス作成規則

(趣旨)

第1条 この規則は、岡山学院大学及び岡山短期大学の教育方針に従い、各学科の教育課程（カリキュラム）の授業科目のシラバス（教育計画）の作成について定める。

(シラバスの様式)

第2条 シラバスの様式は様式－1のとおりとする。

(教育計画年度)

第3条 シラバスには年度表示して、使用する学生の入学年度を明確にする。

(科目名)

第4条 教育課程（カリキュラム）に編成されている授業科目名を記入する。

(授業回数・単位数)

第5条 当該授業科目の授業回数と単位数を記入する。

(担当教員)

第6条 授業科目を担当する教員名を記入し、学生からの質問受付の方法として e-mail アドレス及びオフィスアワーを記入する。

2 e-mail アドレスがない場合は無記入とする。

3 オフィスアワーの記入は、時間設定の代わりに在室時は何時でも可としてもよい。

(教育目標と学生の学習成果)

第7条 教育目標は教育課程編成・実施の方針及び学生の学習成果について明確に記入する。

(授業の進め方)

第8条 授業の進め方にある講義・演習・実験・実習・実技は、いずれかを四角で囲う。その際、別紙－1, 2の授業形態を参照する。

2 予習・復習は、1単位45時間の計算によって、講義：30時間、演習：15～30時間を課すよう授業時間以外の学習を加えること。その際、内容ごとに必要な学習時間の目安を含めて記入すること。

3 テキストの指定は授業内容に相応しいもので、高額にならないものを選択すること。

(学習評価の方法)

第9条 学習成果を明示し、「達成基準」ではなく、学習成果を測定する方法及び評価点の配点が学生に分かるよう記入する。

2 課題（試験や提出物等）に対するフィードバックの方法を記入する。

(注意事項)

第10条 参考図書等を記述し学生が学習しやすくする。

(授業回数別教育内容)

第11条 1回から15回の授業内容を記入する。

2 学習内容の箇条書きではなく、「何を学び何が出来るようになるか」について教育目標と学習成果の整合性を図って記入する。該当回の授業で何を学習したかを欠席者にも分かるように記入する。

3 定期試験を含まない。

令和□□年度教育計画							
科目名	□□□□□□□□	授業回数	□	単位数	□	担当教員	□□□□

基礎音楽		○	
公務員講座（A）		○	
公務員講座（B）		○	
クラブ活動（A）		○	
クラブ活動（B）		○	
保育者基礎演習		○	

専門教育科目 授業形態

授業科目名	講義	演習	実習 実技
教育心理学		○	
特別支援の方法・保育と理解		○	
発達心理学Ⅰ	○		
臨床心理学(A)		○	
社会心理学	○		
保育者論・教師論	○		
教育原理	○		
教育制度論	○		
幼児理解及び保育相談	○		
事前・事後指導			○
幼稚園教育実習			○
保育・教職実践演習(幼稚園)		○	
社会福祉	○		
子ども家庭支援論	○		
子育て支援		○	
子ども家庭福祉	○		
保育原理Ⅰ	○		
保育原理Ⅱ	○		
乳児保育Ⅰ	○		
乳児保育Ⅱ		○	
社会的養護Ⅰ	○		
社会的養護Ⅱ		○	
保育実習Ⅰ			○
保育実習指導Ⅰ		○	
保育実習Ⅱ			○
保育実習指導Ⅱ		○	
子どもの保健	○		
子どもの健康と安全		○	
子どもの食と栄養		○	
保育内容総論		○	
教育課程論及び教育方法・技術論	○		
幼児と健康		○	
「幼児と健康」の指導法		○	
幼児と人間関係	○		
「幼児と人間関係」の指導法		○	
幼児と環境	○	○	
「幼児と環境」の指導法		○	

幼児と言葉	○		
「幼児と言葉」の指導法		○	
幼児と表現Ⅰ		○	
「幼児と表現Ⅰ」の指導法		○	
幼児と表現Ⅱ		○	
「幼児と表現Ⅱ」の指導法		○	
幼児と音楽Ⅰ(A)		○	
幼児と音楽Ⅰ(B)		○	
幼児と音楽Ⅰ(C)		○	
幼児と音楽Ⅰ(D)		○	
幼児と音楽Ⅱ(A)		○	
幼児と音楽Ⅱ(B)		○	
幼児と体育(A)		○	
幼児と体育(B)		○	
幼児と図画工作		○	
児童文化	○		
卒業予備研究		○	
卒業研究(A)		○	
卒業研究(B)		○	

令和4年度の年間の授業の計画

学年・学期・休業日

学年 4月1日～翌年3月31日

学期 前期 4月1日～9月10日、後期 9月11日～翌年3月31日

休業日

国民の祝日に関する法律に規定する休日

日曜日

春期休業 3月21日～3月31日

夏期休業 8月1日～9月10日

冬期休業 12月22日～翌年1月7日

令和4年度

前期（4月1日～9月10日）		後期（9月11日～3月31日）	
4月	4月1日入学式 4月2日～7日オリエンテーション（新入生） 4月2日授業開始（新入生以外） 4月8日授業開始（新入生） 4月4日～9日履修登録（新入生以外） 4月11日～16日履修登録（新入生）	10月	10月15日有城祭 10月27日短大開学記念日
5月	5月31日大学開学記念日	11月	11月9日学友会役員選挙
6月	6月25日後援会総会	12月	12月21日授業終了
7月	7月25日定期試験開始 7月30日定期試験終了	1月	冬期休業12月22日～翌年1月9日 1月10日授業開始

			1月23日～1月28日定期試験
8月		2月	
9月	9月1日～9月7日オリエンテーション期間 9月12日後期授業開始 9月12日～9月17日履修登録	3月	3月20日卒業式 春期休業 3月21日～3月23日 (学則では31日) 3月24日～3月30日オリエンテーション (在学生)

六 学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること（6号関係）
（必修科目、選択科目及び自由科目の別の必要単位修得数を明らかにし、取得可能な学位）

岡山短期大学幼児教育学科

卒業認定・学位授与の方針

学位：短期大学士（幼児教育学）

修業年限：2年

総修得単位 62 以上

イ） 基礎教育科目については、10 単位以上。

ロ） 専門教育科目については、37 単位以上。

Society 5.0 時代の現場に即応する保育者になるため、学科の教育課程（基礎教育科目および専門教育科目）の学習を通して科目の単位を修得し、学則に規定する卒業に必要な単位を修得した者に学位を授与する。

卒業認定の際に獲得していることを求める学習成果は次のとおりである。

Society 5.0 時代の現場に即応できる保育者に求められる専門的学習成果と社会人・職業人として求められる汎用的学習成果を獲得している。

七 校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること（7号関係）
（キャンパス概要、運動施設概要及びその他の学習環境、主な交通手段等）

新幹線を利用すれば、広島からも大阪からも1時間程度。
倉敷市周辺は、東西南北の高速自動車道が交差し、
山陰、山陽、四国のどこからでもアクセスが整っています。



岡山学院大学・岡山短期大学 キャンパス平面図



八 授業料、入学料その他の大学が徴収する費用に関すること（８号関係）

岡山短期大学

学費は１年を２期に分けて１期分（半年分）を每期開始後１０日以内に前納するものとする。

令和４年度学費一覧表			
納入時期 入学手続き時	入学手続き時	毎学年度	
		前期	後期
入 学 金	190,000 円		
授 業 料		310,000 円	310,000 円
教育充実費		75,000 円	75,000 円
施設設備費		28,500 円	28,500 円
合 計	250,000 円	413,500 円	413,500 円

以上の外に、下表の金額が必要である。なお、諸費変更の場合、在学生にも新規金額を適用する。

後 援 会 費	37,000 円（毎年）
卒 業 寄 附	（一口任意）一口 20,000 円
学 友 会 費	8,000 円（毎年 7,000 円＋入会金 1,000 円）

学生寮（令和４年度から入寮生募集停止している）

女子寮のみ

学 寮	定 員	設 備	部屋の使用
椿 寮	50 名（女子）	部屋にエアコン・机・本棚・ワードローブ・ベッド・洗面化粧台等を備えている。 インターネット：NTTおよび各プロバイダと個人契約でインターネットが利用できる。 テレビの持ち込みはできない。	一部屋一人

令和４年度寮費等				
種 別	入寮費 (入寮時)	寮費 (月額)	食費 (１日２食・月額)	厚生費（月額）
椿 寮		29,200 円	27,600 円	1,000 円
1. 物価の変動により変更することがある。 2. 冷暖房費は別に臨時徴収する。 3. 昼食は学内食堂を利用する。 4. 下水道使用料を別途徴収する。				

九 大学が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること（9号関係）

学生相談室

メンタルケアやカウンセリング体制については学生相談室がある。本学学生の個人的諸問題について相談に応じ、援助を行うことを目的とするもので、入学式直後のオリエンテーションで概要を毎年告知している。構成員はカウンセラー及び相談員である。利用可能な日時は年度・学期ごとに掲示によって告知し、利用方法に関しては全学生に対して新年度オリエンテーションにおいてカウンセラーが特別に説明している。以上のことは学生便覧に詳述され、学生はいつでも読むことが出来る。運営に関しては学長とカウンセラー及び相談員が連携をとっている。

休養室

学生の保健衛生管理を目的として休養室を設置している。休養室は、学務課学生係が管理・運営している。学生の身体状況に応じ、本学教員の医師に相談の上、外来受診等に供する場合も生じる。

本学の校医は財団法人倉敷成人病センターの健診センター長にお願いしているので入学後の健康診断の結果も当センターに依頼し学生の実習等における健康診断書の発行も本学で行っている。

生活指導担当教員および環境衛生担当教員

本学では教員の中から任命された生活指導担当教員により生活指導部が構成され、学生の心身ともに健康な生活支援を行っている。また、同様に任命された環境衛生担当教員で構成する環境衛生部は学内の清掃と美化に努め、学内の規律を保つための厚生補導に努める。このことは入学式直後の新入生オリエンテーションや新学期の新2次生へのオリエンテーションでも生活指導部および環境衛生部は学生に対し呼びかけ、注意を促すのが通例である。

学友会

学友会は各クラブの統括だけでなく、健全で規律ある学生生活の発展にも寄与する任務がある。特に厚生部は各クラスから選出される評議員と各学科教員から1人ずつ任命される顧問によって構成され、学生の意見を広く汲み上げる部門であり、学園のために貢献してきた歴史がある。

キャリア支援室

学科独自のキャリア支援室を設置し、専任教員が就職支援関係（進学・編入学を含む）のキャリア支援を行い、特に保育専門職への就職支援およびボランティア活動・実習、就職に備えて社会人基礎力を養成している。

情報処理教育センター

自由に使えるPCを配置し、授業以外の時間帯における学生の情報処理学習を支援している。多くの学生がWeb検索や、レポート作成などに利用している。

図書館

図書のレファレンスサービスの他に貸し出し用ノート PC が利用できるようにしてありインターネットを介しての情報学習もできるように配慮している。

経済的支援

日本学生支援機構の奨学金「第一種奨学金」「第二種奨学金」を希望する学生に対し、学年始めのオリエンテーション時に学務課学生係が制度の説明から書類作成手続き及び学生生活の指導(特に経済面)までを行っている。

本学独自の奨学金制度としては「岡山短期大学特別奨学生」の制度がある。これは特別推薦選抜に合格し入学手続きを完了した者で、特別奨学生を希望する者の中から学業優秀者を選抜し、在学中の授業料半額免除を可能にしている。

また家庭の事情などにより在学中に授業料納付が困難になった学生の申し出により成績・人物を審査し、合格者を優待生として授業料の半額免除を実施する「岡山短期大学A種奨学生」がある。

入学後、本学より半径 2km 圏内で一人暮らしをされる学生に対して、毎月の家賃 10,000 円を補助する家賃補助制度がある。

経済的支援体制としてのアルバイト紹介などの業務を学務課学生係が行っている。

教育上の目的に応じ学生が修得すべき知識及び能力に関する情報（学校教育法施行規則第172条2第2項関係）

幼児教育学科

学生の学習成果

本学で学ぶ学生の卒業時の学習成果は、建学の精神「教育三綱領」の基に、自律した信念のある社会人となることである。

学科の専門学習では、Society 5.0 時代の現場に即応する保育者（幼稚園教諭・保育士）になるため、学科の教育課程（基礎教育科目および専門教育科目）の学習をとおして、次の学習成果を獲得する。

I. 専門的学習成果

幼児教育施設（幼稚園、保育所、幼保連携型認定こども園）の現場で、幼児教育（環境を通して行う教育）とは何かを考え、「資質・能力」「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を意識し、保育指針の「乳児・1歳以上3歳未満児の保育」を理解し、乳児期の保育や子どもの育ちをとらえて、幼児期への学びの連続性を考えることができる能力を獲得する。

II. 汎用的学習成果

社会人として求められる態度、信念、意見、価値、コミュニケーション能力を獲得する。

社会人としての責任を果たすために必要な倫理観や価値観、自己管理の能力を、また職業生活や社会生活に必要な情報リテラシーや数量的スキル、人との関わりに必要な論理的思考、自己表現、他者理解、問題解決の能力を獲得する。

